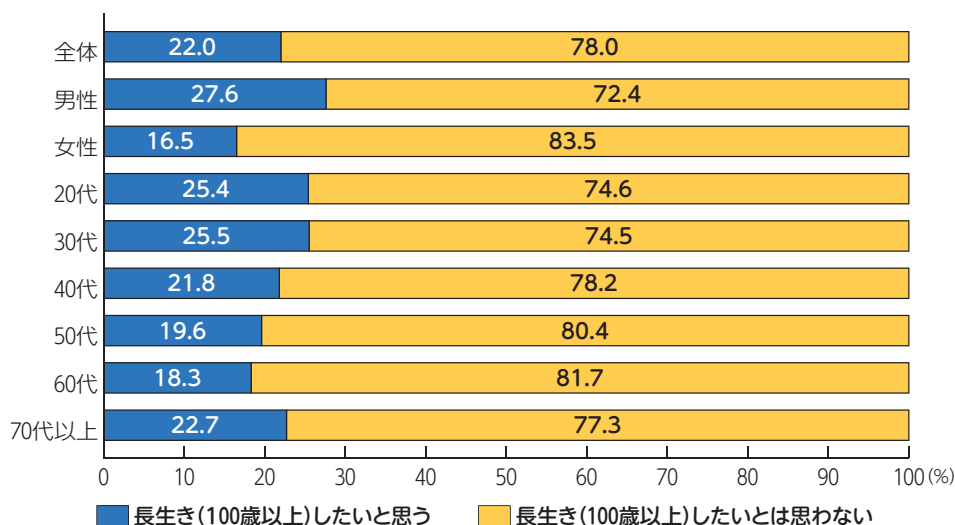


意識調査
2023全国の男女1000名に聞いた
『人生100年時代の逝き方』

■ホスピス財団が定期的に行なっている意識調査が5年振りに実施されました。

■今回の調査では、過去の調査の継続として人生の最終段階で受けたい治療や、その意思決定をだれが行うかなどに加えて、生き方死に方に関する意識という「人生100年時代」にふさわしい調査項目が加えられ、興味深い調査となりました。

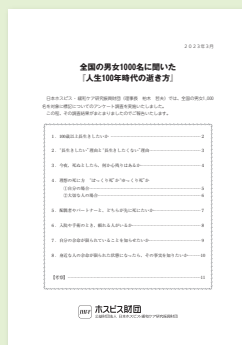
長生き(100歳以上)したいと思うか(性別・年代別)



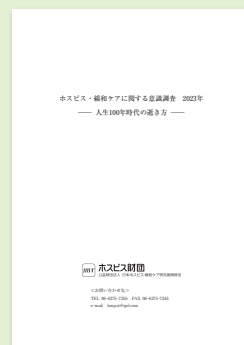
■今回の調査結果は、報告書「ホスピス・緩和ケアに関する意識調査2023…人生100年時代の逝き方…」としてホームページに全文を公開しております。

■また、ダイジェスト版を作成し印刷物として配布すると共にホームページにも公開しております。

<https://www.hospat.org/research-top.html>



ダイジェスト版



報告書(web版)

全国の男女
1000名に聞いた
『人生100年時代の
逝き方』ダイジェスト版
(印刷版)の目次

- 100歳以上長生きしたいか。(p 2)
 - “長生きしたい”理由と“長生きしたくない”理由(p 3)
 - 今夜、死ぬとしたら、何か心残りはあるか(p 4)
 - 理想の死に方“ぼっくり死”か“ゆっくり死”か(p 5～6)
 - 配偶者やパートナーと、どちらが先に死にたいか(p 7)
 - 入院や手術のとき、頼れる人がいるか(p 8)
 - 自分の余命が限られていることを知らせたいか(p 9)
 - 身近な人の余命が限られた状態になったら、その事実を知りたいか(p 10)
- 「考察」

意識調査委員のコメント

自分の理想の死の方について、「ぽっくり死」を望む人が7割もいました。「苦しみたくない」「家族に迷惑をかけたくない」が二大理由です。また、有配偶者にたずねた質問では、男性はどの年代でも「自分が先に死にたい」と考えているのに対し、60代以上の女性は男性に先に逝ってもらいたいと考えていました。しかし女性は年代が下がるほど、「自分が先に死にたい」と回答した人が多くなり、40代以下では、男女ともに「自分が先に」と考える人が過半数を占めています。「最後は一人」という状況になることを恐れている人が増えているのではないかと推察されます。実際、ひとり暮らしの人のなかには、入院や手術の保証人、付き添いや立ち合いしてくれる人がいないケースが少なくないことも明らかになり、「自立できなくなっても、支える家族がいるのが当たり前」ではなくなった昨今、老・病・死に向かう人たちを社会でどう支えるかは喫緊の課題です。



小谷みどり

100歳以上まで長生きしたかどうかをたずねたところ、長生きしたいとは思わない人が8割近くいて、そこまで長生きを望まない人が大半であることが明らかとなりました。家族の介護負担や、老化に伴う身体的苦痛、経済的不安などが、その理由として示されました。



坂口幸弘

特に、30～50代の現役世代で、経済的不安を理由に、長生きすることを望まない人の割合が高いことは特筆すべきことであるといえます。

また、今夜死ぬとしたら心残りがあるかどうかをたずねたところ、およそ3人に2人が心残りはあると回答しました。若い年代ほど心残りがある人の割合が高かったです。他方、若い世代であっても、心残りはないと回答した人が一定の割合でいました。心残りの内容としては、子どもの成長を見届けられないなど子どもに関する記述が最も多く、家族の生活が心配、身辺整理ができていない、親孝行ができていない、感謝の気持ちを伝えられていない、もっと旅行に行きたいといった理由も比較的多くみられました。

第7回日本Whole Person Care研究会

日本Whole Person Care研究会とホスピス財団の共催で、3月5日（日）Web開催されました。

講演1

『仏教の瞑想とマインドフルネス』

蓑輪 顕量 先生

（東京大学大学院人文社会系研究科
アジア文化研究専攻インド哲学仏教学講座）



講演2

講演2『真のWounded Healerになるために』

栗原 幸江 先生

（NPO法人 マギーズ東京 理事・心理療法士）



★次回第8回日本Whole Person Care研究会は8月19日（土）13時から札幌にて対面で開催予定です。
ご参加をお待ちしております。

近刊紹介

「わたしの死、あなたの死」& 「苦痛からの解放」 …最後まで生きるために…

柳田邦男編

上下2巻 青海社 2023年2月刊 各1980円+税

本著は、2005年から2016年に亘って開催された「21世紀高野山医療フォーラム」の講演の中から、フォーラム理事長であった柳田邦男氏が、一般の人びとに人生の最終章をどう迎えるかを考えるうえで読んでいただきたい18篇を編集されたものである。演者は医療、心理学、哲学、宗教、文学の分野で活躍されている鷺田清一氏、河合隼雄氏、養老孟司氏、山折哲雄氏はじめ、著名な方々の講演録であり、いわば“いのちの仕舞い方指南書”と呼べるものではないだろうか。

そして、編者、柳田氏は、人生の最終章では「精神性のいのち」が重要であり、治療とは異なる支えが必要と書かれているが、これはまさにホスピスケアにも通じる大切なことだと思われる。

ホスピス・緩和ケアに関わる人に限らず、広く一般の方々にも薦めたい書である。



お知らせコーナー

●WPCワークショップ

Whole Person Careを体験できるワークショップ、3年振りの開催です。

▶日時：8月26日（土）コースⅠ
8月27日（日）コースⅡ

▶場所：千里ライフサイエンスセンター（豊中市）
申し込み等の詳細はホームページをご覧ください。



●ホスピス・緩和ケア白書2023 発売中

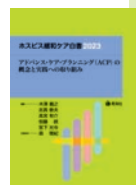
発行者：青海社

編集協力：ホスピス財団

3000円+税

（ホスピス財団賛助会員には無償配布中）

特集：アドバンスケアプランニング（ACP）の
概念と実践への取り組み



●映画『明日香に生きる』

ホスピス財団が後援している溝淵雅幸監督の映画が全国で順次上映されています。

予告編など詳細はホームページをご覧ください。



●日本死の臨床研究会 年次大会

11月25日（土）～26日（日）愛媛県県民文化会館

ホスピス財団主催：特別講演『ホスピスのこころ（仮）』

演者：柏木哲夫

詳細は日本死の臨床研究会ホームページをご覧ください

こんにちは ホスピス

平和会 吉田病院「緩和ケアユニットあこーだ」の紹介

地域緩和ケアサポートきずな 緩和ケア医師 加納 麻子

当院は奈良市の住宅街にある中規模の病院です。90年以上前に精神科医療から始まり、今はココロもカラダも診る地域に密着した医療をしています。地域の方々からのニーズに応えていたら、緩和ケアと呼ばずとも緩和ケアを提供してきた歴史がありました。

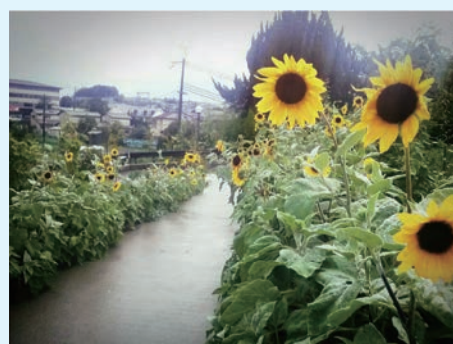
緩和ケアの研修を受けた私が帰任した2013年からは、“疾



お部屋での祈りの竖琴

患を問わない地域緩和ケア”を目標に掲げています。つまり、がんだけではなく非がんの患者さんにも、どこで療養されていようと緩和ケアを提供してゆくことを目指しています。外来での緩和ケア、在宅での緩和ケア、入院での緩和ケアを、患者さんの希望や病状に合わせて提供することで、シームレスな緩和ケアを実現しています。

緩和ケア外来では、疾患早期からのアドバンス・ケア・プランニングを実践しています。療養の場についての希望を尋ねると「できる限り家で過ごしたい



ボランティアさんによる院内ガーデン

けれど、必要な時には入院したい」という方がほとんどでした。“いざとなったら入院できる病院がある”という安心は在宅で過ごしておられる患者さんやご家族にとってとても大きいものです。それを叶えるべく、2017年に院内に「緩和ケアユニットあこーだ」を開設しました。7床だけの小さな緩和ケア病棟です。お部屋はすべて個室です。差額ベッド代はいただいております。持てる者、持たざる者を問うことなく“人権としての緩和ケア”を実践できることを誇りに思っています。

ホスピス財団 2023年度 事業計画書（概略）

1. ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業（公募）
2. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究事業（第5次調査・2年目）
3. 『ホスピス・緩和ケア白書 2024』（特集テーマ+データブック）作成・刊行事業
4. ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー開催事業
5. WPCワークショップ開催事業
6. 『Whole Person Care理論編』発行事業
7. 特定非営利活動法人「ともいき京都」における病いと共に生きる人・市民主体のプログラム創生事業
8. 緩和ケア・支持療法領域に関わる医療従事者を対象とした意思決定支援に関する研修セミナーの開催
9. ホスピス・緩和ケアフォーラム開催事業
10. 一般広報活動事業
12. ホスピス財団 第6回 国際セミナー開催事業
13. APHN関連事業
14. 日本・韓国・台湾・香港・シンガポール・インドネシア 第4期共同研究事業（3年計画の2年目）

詳細はホームページに掲載しております。

寄付者一覧

（2022年9月～2023年2月 順不同、敬称略）

（団体）

日本メノナイトブレザレン教団石橋キリスト教会
遺愛女子中学校・遺愛女子高等学校

（個人）

竹下淳也、所昭宏、木田正子、吉村規男、匿名1名

新規賛助会員

（2022年9月～2023年2月 順不同、敬称略）

（団体）なし

（個人）なし

寄付・賛助会員のお願い

私たちの活動は、全て、皆さまからのご寄付と賛助会員の方々の会費に拠っております。どうか私どもの活動の趣旨をご理解いただき、ご寄付・賛助会員のお申し込みを頂けるようお願いします。

（税額控除の対象になります）

また、「遺贈」による寄付もぜひご一考下さい。当財団は、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」について提携しております。公益法人への遺贈に拠る寄付財産は、原則として相続税の非課税財産となります。

上記ご寄付、賛助会員、遺贈に関するお問い合わせは

06-6375-7255 です。

因幡国跡



うらうらに 照れる春日に
ひばり上がり 心悲しも
ひとりし思へば
大伴家持 万葉集

2023年度収支予算書（概要）

2023年4月1日から2024年3月31日まで

（単位：千円）

科 目	2023年度予算
【経常収益】	
①基本財産運用益	5,850
②受取寄付金	15,600
（内訳） 賛助会費収入	15,500
一般寄付金収入	100
③雑収益	800
経常収益計（A）	22,250
【経常費用】	
①事業運営費	33,780
（内訳） ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業	9,680
ホスピス・緩和ケア従事者に関する教育事業	11,619
ホスピス・緩和ケアに関する普及・啓発事業	5,774
ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業	6,707
②一般管理費	5,450
経常費用計（B）	39,230
当期経常増減額（A－B）	▲16,980

不足分は前期繰越金等で充当予定

編集後記

5年振りに意識調査が実施され、新しく「100歳以上まで長生きしたいか」が加えられた。人生100年時代と言われ、また日本では100歳以上の方が9万人を超えた事実と重ねると、時宜に叶った問いかけであると思う。しかし、その回答を見ると、100歳以上まで長生きしたいと回答した人は2割程度であった。医学、医療の発展により現在の長寿社会が実現したことを相見ると、何か違和感を感じるのである。この調査のタイトルは「人生100年時代の逝き方」とあるが、このことは、簡単に死ねない時代を迎えたと言えるだろう。それ故に、いかに自分らしい最期を迎えるかは切実な問題であり、今回の紙面に紹介された「最後まで生きるために（上下）」は、よき手ほどきになるのではと思わされた。同時にホスピスケアの充実がより一層求められる時代であることを再認識させられた。

（編集子）